

令和 4 年度 墨田区立中川小学校 経営報告書

令和 5 年 3 月 6 日

学 校 目 標	◎よく考え、進んで学習する子（今年度の重点） ○思いやりの気持ちをもち仲良くする子 ○からだをきたえ、ねばり強く努力する子
目 指 す 学 校 像	子供、保護者、地域社会にとって魅力ある学校
目 指 す 子 供 像	健康で自他の人格を重んじ、創造性に富み実践力のある児童を育てる
目 指 す 教 師 像	かけがえのない児童が存在していることを自覚し、児童の成長を喜び合える教職員

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の研究授業の成果を生かし、対話を通して意見を深めたり、意欲をもって探求したりしながら、学ぶ楽しさ味わわせる。その楽しさをベースとして自ら学ぶ意欲を高め、問題を解決していく力を養う授業改善を行う。 ・GIGA スクール控訴雲の着実な実施によって、学ぶ機会を確保すると共に、自ら学び、考え、正しく判断し、発信できる力を育てる指導の工夫を行う。 ・基礎・基本の定着のため、朝学習や放課後補充学習、タブレット端末を活用した家庭学習を行い、学力の向上を図っていく。特に理科においては十分に復習を行っていく。 	B	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターの教員を中心に、スクールカウンセラーなどを活用し組織的に対応する。 ・学校全体で特別な支援を講じるために、情報共有をしながら、必要な場面で学校支援員による必要な支援が行えるように、計画的に配置を行っていく。 ・生活指導研修会、生活指導夕会、ミニ支援会議など日常的に児童の情報を、教員全体で共有し、特別な支援を必要とする児童の情報共有をすると共に、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・解決を行う。 	B	A
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野のゲストティーチャーによる授業を行ったり、地域人材を積極的に活用したりすることで、職業などについてイメージをもたせるなどキャリア教育の充実を図り、将来にわたって学ぶことの大切さを実感させる。 ・社会科や生活科、総合的な学習を通して地域の産業や、歴史にもふれながら、郷土を愛する心と共に、地域に貢献しようとする心を育てる。 	A	A
	学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も全学年の研究授業を通して校内研究に全校体制で取り組み充実を図ることで、教員の指導力・授業力を高めるようにしていく。 ・今日的な教育課題の解決に対し、問題意識をもち、校内研究の他に、校外の研究會に積極的に参加し、内容の共有を行うなどして指導改善を図る ・区のGIGAスクール授業研究教員を中心に、定期的な校内のICT研修を行い、すみだGIGAスクール構想のもと、個々の教員のスキルを上げると共に、授業内で場面に応じて、適切に活用し児童の学力向上を目指す。 	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	学校公開も行も実施され、学校における授業改善の様子も見る事ができた。公開も限られており、ICTなどの活用の場面など、クラスによって見ることはできなかったが、GIGAスクール構想については遅滞なく進め、いかなる場合でも学びを止めないようにしてもらいたい。1/2成人式や外部講師を招いての授業も実施されてきたのは良いことである。今後も、学力と共にキャリア教育など将来に目を向ける指導にも力を入れていってもらいたい。			

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止委員会や支援委員会などを中心としていじめや不登校の未然防止、早期発見、早期解決のため、教職員間で報告・連絡・相談を徹底し、情報共有し一致協力して対応する。 ・ネットモラルについての継続的な指導など、「いじめは絶対に許されない。」との意識を、学校教育全体を通じて、児童に徹底すること。また、児童会活動などを通じていじめ防止について、児童自らが考え発信する機会を作る。 ・指導計画等を、家庭や地域へ積極的に周知し、保護者や地域住民の理解を得るよう努めること。また、適時、専門機関と連携し対応を図る。 ・児童の ICT を利用した心身の健康チェックを継続していくと共に、いつでも、誰にでも相談できる校内体制を整える。 	A	A
	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全学級において「中川のやくそく」や学習規律「中川スタンダード」の定着を図るようにする。やくそく等については、「安心・安全な学校生活」を送る事を大前提として、児童自らが考えて行動できるように指導する。 ・道徳の授業を中心に全教育活動において、道徳教育を充実し、心の教育に重点をおいた指導を行う 	A	A
	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「安心・安全」な学校生活を送るために、決まりの大切さを理解し、自分を守り、他者を思いやる気持ちを育てながら、率先して安心・安全な生活を送る実践力を身に付けさせる。 ・災害や緊急時に自分の身は自分で守るという意識をもち行動できるように、毎月の安全指導や安全点検、避難訓練、不審者対応訓練、登校班指導を実施し、危機管理に対する指導の充実を図る。 ・防災のための引き渡し訓練の実施や防犯のための教員による学区巡回、また P T A と連携した長期休業中のパトロールなど保護者や地域と連携し、児童の安全確保のための取組を行う。 ・SNS を通じての個人情報のやりとりや、呼び出しに応じないなど、現代的な危険への回避についても指導を行う。 ・毎月の教室をはじめとした施設点検や適時行う遊具の点検などの施設管理、児童在校時の施錠を徹底し、児童が安心・安全を実感しながら学校生活を送れるようにする。 ・緊急時にはメールシステムなどを活用し、保護者に対し必要な情報を通知すると共に、協力を求める。 	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		新型コロナウイルス感染防止によるマスクの着用やコミュニケーションの取り方などの影響で、心のケアについては十分に気を付けていかなければならない。不登校、いじめについては学校、家庭が連携し防止に努めてもらいたい。挨拶については登校時など子供たちからする姿が見られる。安心・安全については引き続き学校・地域が協力して子供たちに声をかけるなど、地域全体でも意識を高めていきたい。		
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針は年度当初だけでなく職員会後などのを使い、全教職員で共通理解を徹底し、学力の向上や思いやりの心の育成など本校の特色ある教育活動を一層充実させる。 ・学力向上に向けての、GIGA スクール構想などの推進や自分も周りの人も大切に人権尊重の教育の充実を図る。特にいじめ、不登校防止などにむけて子供たち自身が、考え発信できる指導などについても計画的に推進する。 	A	A

様式 4

理 運 営	学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。	A	・児童の実態把握のため、各種学力調査、意識調査（i-check）等の結果を活用し、一人一人の児童の実態を把握する。 ・学習調査後の全体の学力向上プランの見直しと共に、個人票の分析を行い、個々に応じた指導を見直し、改善を行うと共に教員自身が自己の指導について評価を行うようにする。	A	A
	学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。	B	・児童への安全指導や固定遊具をはじめとした施設の安全点検を実施し、児童が安全にかつ安心して学校生活を送れるように努める。 ・GIGA スクール構想におけるネットワーク整備、全教室のICT機器の整備と共に、積極的に活用することで、授業の充実を図るようにする。 ・児童数増に伴う教室をはじめとした整備を、教育委員会と相談しながら、計画的に進めていく。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	教職員が一致団結してこれからも日常的に教育活動に取り組んでもらいたい。学力については区学力調査結果等を通して、子供たち一人一人の課題を把握し、子供たちにわかりやすい授業を引き続きお願いしたい。いじめの根絶や不登校の防止については、学校だけでなく、保護者、地域の連携を図りながら行う事も大切である。登下校の安全の確保など、地域でも協力できることは引き続き行っていきたい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家 庭 ・ 地 域 連 携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	A	・学校便りやホームページの内容、校内掲示を充実させ、学校の取組や教育活動を発信し、積極的に保護者、地域に伝えるようにする。 ・日頃の授業での成果物の掲示などを個人面談や保護者会などを行うことで、学習の様子を伝えるとともに、	B	A
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	A	・教育活動並びに、児童の活躍を認め伸ばしていく場として授業参観や行事など保護者や地域の方が参観できる機会のありか方を検討していく。 ・各学校行事終了後や学校評価のアンケートを実施し、保護者や地域の意見を広く聞くようにする。結果などについてはホームページなどで公開し、学校教育への理解や協力を得られるようにする。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等	今年度はマスクをした状態ではあったが、音楽会が開催できた。保護者鑑賞の座席などについては工夫が必要であったが、子供が活躍できる姿が見えてよかった。学校公開のあり方などは、個人情報保護等の観点に十分配慮を行いつつ、できるだけ多くの情報発信をすることが学校への理解と信頼につながると思う。児童数が増えることは嬉しいことではあるが、教室増設などには時間が必要な事もあり、区と連携しながら計画的に進めていって欲しい。			

2 令和4年度学校評価のまとめ

<p>・「あなたもわたしも、大切なひとり」のもと、学習指導・生活指導を継続し、子供たちが安心して学校に通い、自己実現できるようにしていく。ICTを使った心身の健康観察や、相談体制などの確立、登下校の見守りを通していじめや不登校のない学校を目指して地域・保護者・学校が今後も連携していく。</p> <p>・特別支援教育やGIGA スクール構想を組織的、計画的に進め、一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現ができるよう、教員の資質向上のため今後も研鑽に励んでいく。</p> <p>・児童数が増加傾向にあり、来年度は14学級となる見通しである。児童数増加による、学校設備の充実や行事のあり方など適宜、教育委員会などと相談しながら進める。</p>

以上の通り報告いたします。

墨田区立 中川小 学校 校長 中嶋 保徳 公印